

晩秋の日本を離れて、常夏・灼熱のグァムに同期4家族と共に遊んだ。その雑感である。電話の来ない、俗世間から切り離された至福の一時であった。(写真は後日)

- ① スコール：ゴルフに出掛けようとする一点俄に掻き曇り、バケツをひっくり返した様な雨である。それが、地域内にあるクラブハウスに到着する頃には青空である。ラウンド中にも雨にも祟られるが、それ程もでもなかった。日没少し前、全員でディナーに出掛けようとする滞在型宿泊等を出ようとする朝以上の雨脚である。島内観光の日、向こうに黒い雲があり白く煙っている。然しそれが近づいてくる気配はない。島内ショッピング用のシャトルバスに乗車していると道路が濡れている所がある。正にスコールは局所的、一時的である。
- ② ゴルフ場：我々が滞在した滞在型リゾートには各種の運動施設が整っている。アテネ五輪の競泳陣やJリーガーの合宿所でもあった。あのA・パーマーやJ・ニクラウスの設計したと言う名門ゴルフコースと海岸段丘を利用した海越えのショートホールで有名なグァム最高級のゴルフ場で夫々プレーする機会があった。特に海岸段丘に沿ったインコースは、正に眺望絶佳と称すべきコースであった。何れのコースもタフで体力に自信があった小生でも流石に2日目にはクタクタであった。スコアは敢えて問うまい。その後ボーリングをやったのだから、中年パワー恐るべしである。
- ③ 違和感のないグァム：滞在したリゾートホテルも何れのゴルフ場も、日本語の話せるスタッフを揃えており、ゴルフ場のコース案内等も日本語が堂々と付記されており、市内に溢れている看板にも日本語が目立つ。観光地にも日本語の案内看板である。宿泊したホテルは日本人専用と言う訳ではあるまいが、日本人の姿しか見かけない。そういう意味においては外国にいると言う違和感が殆どない。電柱が道路脇にあるところまで付いている。かと思うと、三度のディナーの時に全く日本語の通じないレストランもあるから可笑しなものだ。時差が一時間と言うのも有難いし、違和感を覚えない要因の一つかも知れない。
- ④ 一日イベント：やや内陸にあるリゾートホテルを拠点としたこともあってか、それとも南国の万事のんびりした風土もあってか、午前ゴルフ、午後には海でのアクティビティを楽しもうと種々調整したが、残念ながら、二つのイベントを行うことには無理があった。今回見送らざるを得なかった水上バイク・パラセーリング等、海中探索の潜水艦等や離島観光は次回の楽しみとしよう。
- ⑤ 観光等雑感：椰子の実のジュース（かつては母乳代わりでもあった？）の仄かな甘さやワサビしょうゆで食べられる果肉の南国の味は初体験であった。椰子の実のクッキーをガイドの「ヒデチャン」に勧められて土産用に購入したが、高い買い物だったかな。風速90mの台風、現地住人チャモロ族の若い男女の悲恋物語の恋人岬から眺めた紺碧の海に沖縄の海を思い出し、市内ショッピング時には病的に(?)太った老若男女を見て米国社会の問題を垣間見た。
- ⑥ エコノミー症候群：成田から高々3時間余りでもあり、費用のことをも考えると矢張りエコノミークラスに搭乗する事になる。足が決して長い訳ではないが、かなり窮屈である。この程度の時間が限界だろう。